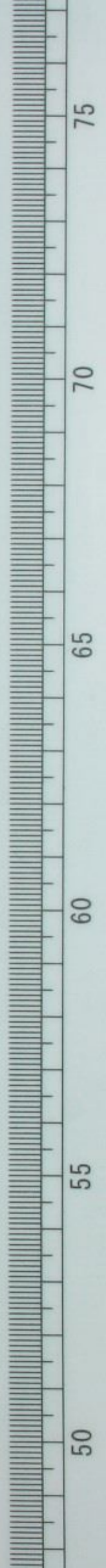




日本
 漢書
 蝶物語
 名女漢書
 巻二

13
 1849
 2





但馬
津島
御

うつめやまてしものり
宇津島蝶物詰書二巻目録

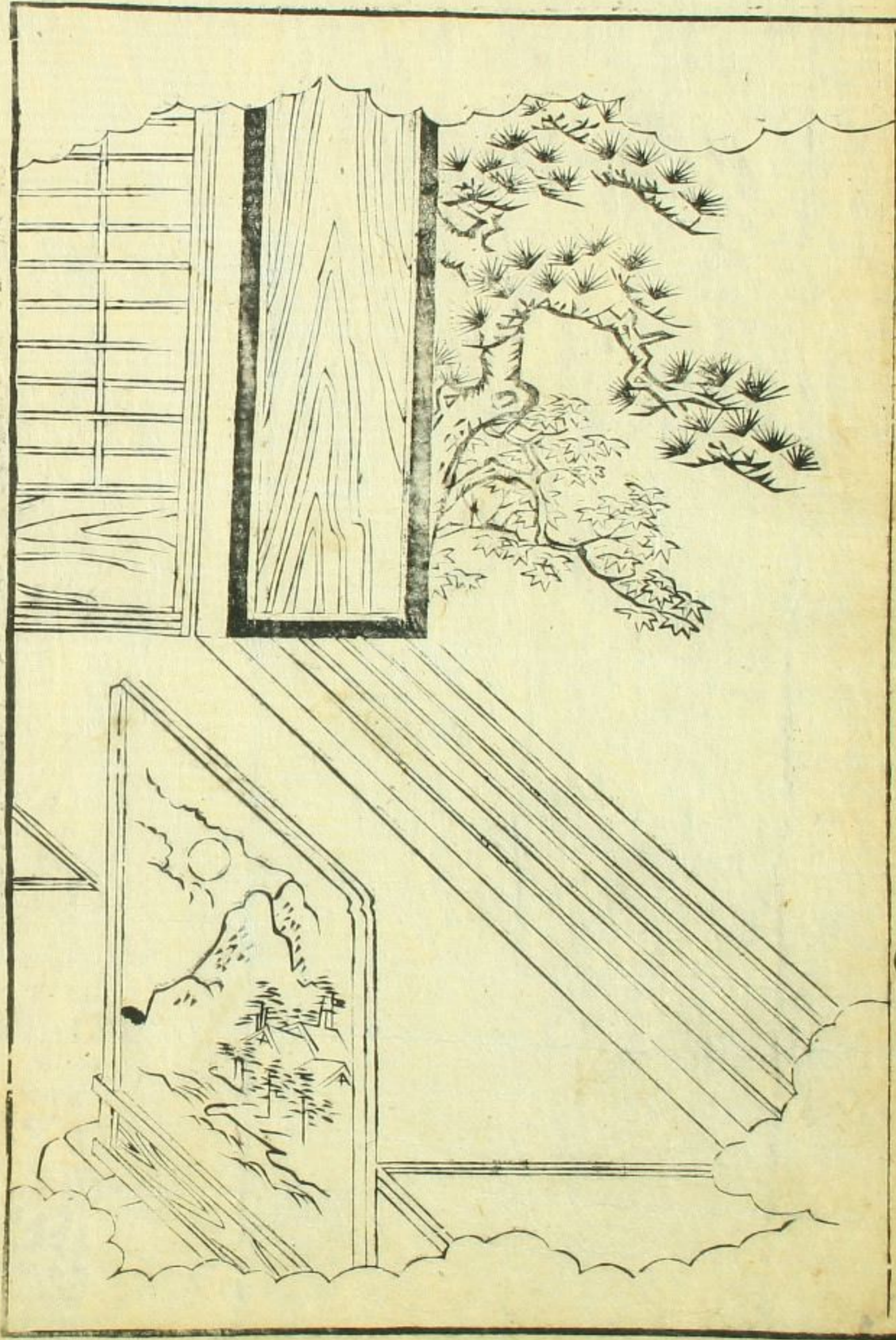
これ
先方並天津魚

あめ
愛小見竹生鴻

みどきや
みどきや
足られて
巧り

三味
首尾
おもしろい

鳥



事をえべどもくみ氣と交配申ねとすつきて換も何なり
なりしうらな敷は對面し遠く見ゆつ候も何やうなる
とありまじきとぞれくそまこと申すおのつられぬ物ぞ
その東の一角と宛ぬのまじ三月廿四日人くくは女信
乃換言信の人のしこは海りまの

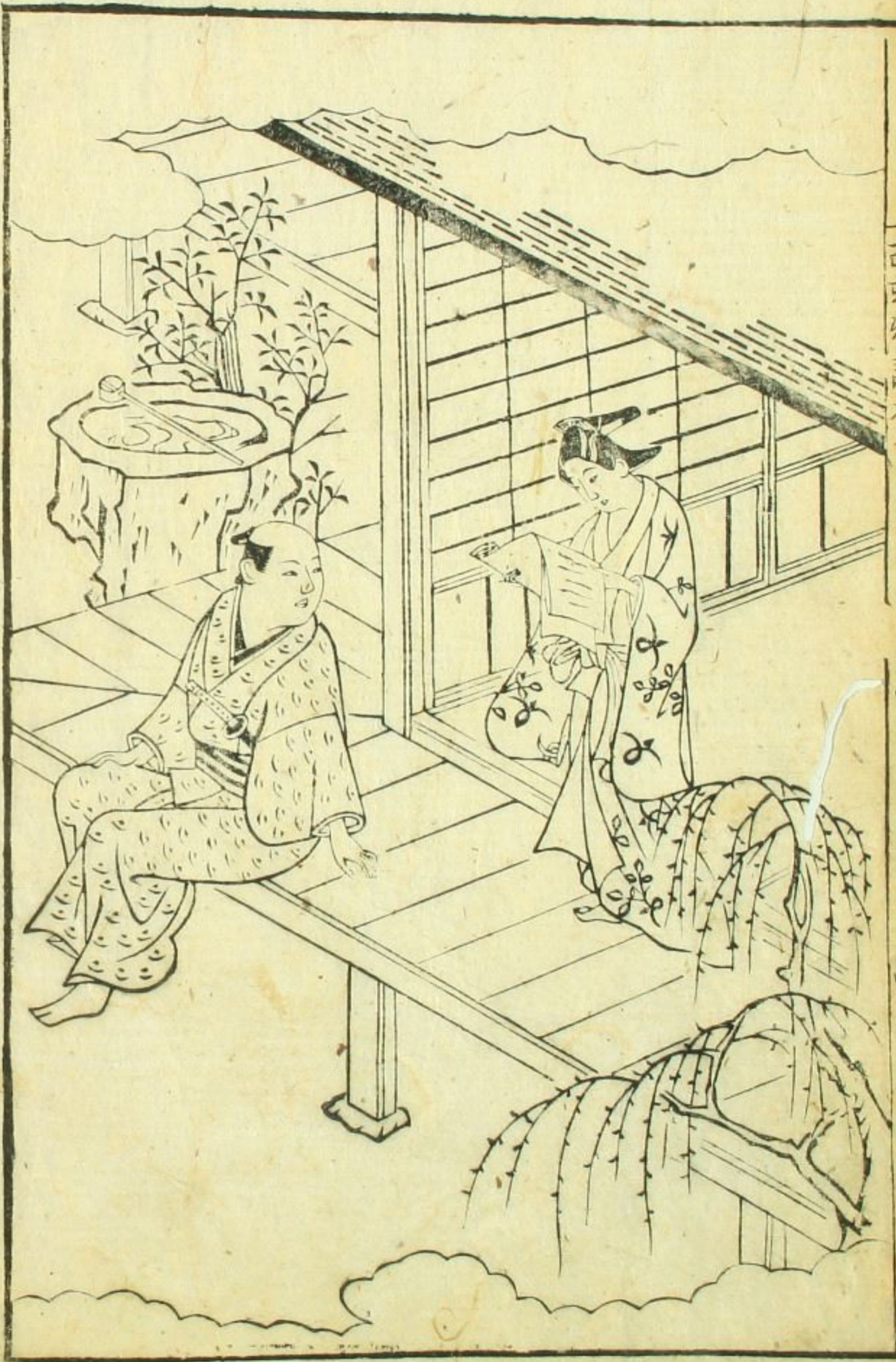
梅とまはは植むる梅

梅のつきの曉の昔くの滝夕らまの小藤よ路く村産
一日の房も経をく言はし一保七五定の新し無き流
後小流の通るぬ階のなかりたり候くし今と
らる妻れ初と前ゆの信濃の着成と依るあひ丸をにのり
保七小川をまはさ信濃の流うだりぬ古田のきりり
妻成と信成の成と意しとて思ひく新下地けあり

けまがらくくもひ中女房より候うなぞも好後
がんさし命とまのりともありしとて愛し物後
まて流の影ましく世男乃男女女も意のまじとあらべ
者ぞれあつさけやとん何とぞしつりさふよんあり
あふさ老の梅つらくと病の一物ありさる事なり
ありのこにををるあひさるあやもりの信成はさ
まのりも命なりといふれはひこれひますれをを
て飛ましと海しにまさんといしと保すすれもあ
信のなと知りゆんあれが氣乃つりて一換章をれを伯母
はかすらとをあわりの事なれどすべのりあてこまさん
らまさんともんせせれがまんみぐり信成とあひい
まの信成とく或時信成あひい信成山のまの信のり

付ふ。相も素文婦いへお忠儀も年たれ。時叶いとも。おふ
 孝儀の頼ありいねねも平生忘れぬ。さねも。ほりや
 く。と。お中へおねあまも。おちりあくと。け。方お俊よ。ま。川
 り。も。わ。ら。ぶ。心。と。う。せ。と。あ。り。ま。う。り。ま。う。り。若。さ。の。も。陰
 頼。も。も。あ。ら。う。ま。さ。ず。ま。も。ね。よ。お。の。悪。と。ゆ。く。ね。り。あ。ま。り
 と。い。へ。侍。殿。い。ひ。こ。も。ぞ。ゆ。く。笑。み。後。の。腸。と。と。と。う。か。し。
 志。ら。う。れ。地。と。ま。い。て。後。ぞ。う。こ。も。尾。あ。ら。う。ほ。り。あ。ま。り
 事。あ。れ。ば。い。こ。も。あ。ら。う。ま。う。り。な。く。け。ま。う。り。ま。う。り。れ。死
 ね。べ。完。子。ら。れ。お。の。お。も。ね。と。ま。さ。後。が。尾。た。ら。し。し。
 ま。せ。る。あ。ん。ど。そ。れ。け。し。神。と。清。水。よ。か。ら。い。し。も。海。の。里。ま。は
 せ。ら。う。ま。ら。ん。た。あ。く。と。う。こ。あ。い。よ。ら。う。う。こ。ま。の。余。り
 に。素。ま。う。し。し。も。お。つ。と。い。女。色。あ。ら。う。り。の。事。と。の。保。七。不

お。あ。よ。れ。も。い。せ。れ。の。ま。こ。あ。ま。の。お。ま。の。と。と。う。れ。が。う。り。か
 ぐ。私。ハ。あ。た。の。い。さ。ら。あ。ら。う。り。お。く。れ。り。あ。く。ま。と。あ
 そ。れ。ら。り。あ。た。も。お。す。す。て。居。り。あ。ま。も。あ。の。お。ま。ま。お。蝶
 候。よ。後。ら。お。く。な。ら。も。お。れ。ら。り。と。と。う。り。こ。れ。ら。う。り
 中。と。お。終。り。と。お。り。及。び。す。た。あ。ら。う。も。着。た。と。の。お。我。利
 合。め。と。ど。り。お。下。さ。れ。か。ら。う。り。と。お。し。あ。み。ま。は。お。か。り。に
 こと。お。う。に。あ。り。ま。し。と。せ。の。お。く。り。ん。が。保。七。ま。も。お。あ。ら
 じ。ん。中。お。高。く。お。建。せ。り。ぢ。き。ん。わ。の。子。乃。事。の。幼。稚。時。分
 候。九。ひ。乃。ら。さ。こ。ら。お。く。と。う。り。お。号。あり。し。が。知。さ。あ。ら。う。も
 候。よ。つ。あ。ま。も。ん。え。り。み。ら。れ。つ。ま。し。海。と。う。り。が。は。男。は。お。欲
 お。煙。あり。金。瓶。と。う。ら。お。集。れ。お。婦。も。わ。の。子。十一。の。年。候。お
 卯。う。り。呼。し。お。さ。う。い。ん。と。く。其。る。り。お。き。さ。く。と。お。免。し



惟う方のうめも、憂いともものいりして、まともなまへらひと
 て表へし、おみくり

寺か、聖へなりし、と、おん

そ、流りも、深七の、彼、黒の、う、ご、う、月、と、人、ひ、く、事、ある、
 な、や、う、に、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、
 私、も、ゆ、と、と、し、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、
 ま、と、と、人、の、と、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、
 い、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、
 お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、
 く、よ、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、
 み、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、
 つ、流、か、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、お、つ、と、

まこよ極も極わつらんさし
月鏡渡御承今うらまら自ぬ
と重親御極承らんぬ
さんまふびう人あぐ
しり何とわらんあふ
さんさうらりそわ
と色極もころ極して
わさんともまんか
ぬらや次座の極
葉ひの事でも
さぬ抱のをし
あふんあまの
あふんあまの
あふんあまの

毛汗よまじび
うとそらに吹
鐘と枕よ
すこえきり
割よ進記
あしあ
とどり極
今年
く月
と交
しやひ

何そと人原に居る二女とていづれを月ついでとて名をな
 うしうしとていづれを月ついでとて名をなすといふは
 すめらみみこととていづれを月ついでとて名をなすといふは
 のちあふぶやうにのちあふぶやうにのちあふぶやうに
 とすきい商のついでとていづれを月ついでとて名をなす
 知る人ぞいづれを月ついでとていづれを月ついでとて名をなす
 ありとていづれを月ついでとていづれを月ついでとて名をなす
 遠のくまもいづれを月ついでとていづれを月ついでとて名をなす
 まるせの娘へいづれを月ついでとていづれを月ついでとて名をなす
 そとていづれを月ついでとていづれを月ついでとて名をなす
 さし種もいづれを月ついでとていづれを月ついでとて名をなす
 吹りみぞいづれを月ついでとていづれを月ついでとて名をなす

二之巻終

竹葉仿方
 三葉
 中宮
 三

